

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ カシワバアジサイ ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

最近、一般家庭の庭で少し変わったアジサイを見かけることが多くなりました。このアジサイはカシワバアジサイ（写真1）で、他のアジサイと同じように梅雨の頃に咲きます。

1 特徴

カシワバアジサイは、アジサイ科（ユキノシタ科）アジサイ属の落葉低木で、原産地は北米東南部です。樹高は1～2m程度ですので、大きさの面から庭木に適しています。

葉は、5～7つに深く切れ込んでおり、カシワによく似ています。この特徴が名前の由来になっています。葉は秋になると赤く染まり、美しく紅葉するので、花とともに二度楽しむことができる優れものです。

6月上旬から7月上旬になると、枝先に長さ15～30cm程度の大きな円錐形の花序を出し、多数の花を咲かせます。花のように見える白い部分は、ガクが大きく発達した「装飾花」です。本来の花は非常に小さく、円錐形の花序の内側にあり、目立ちません（写真2）。

富山県中央植物園内には、八重咲きで花序にボリュームのある「スノーフレーク」（写真では下方を向っていますが、重みのためです）と一重咲きの「スノークイーン」の2つの園芸品種が植栽されています（写真3）。

2 維持管理

カシワバアジサイは半日陰から日向を好みます。光が足りないと花つきに影響します。夏場に土壌が極端に乾燥しない水はけのよい場所に植えま

しょう。一度植え付けてしまえば、特に日常の管理は難しくありません。管理面からも庭木に適した樹木です。

カシワバアジサイは剪定せずに育てると、枝分かれすることなく育つ傾向にあります。そこで、若木の頃、11月から12月頃に地際付近で剪定します。この剪定により、次の年にはたくさん枝分かれした丸くボリュームのある姿になります。この剪定を行った次の年は花芽を切り取っているため、花は咲きません。しかし、その後は毎年7月下旬までに通常の剪定をすれば、毎年、たくさんの花が咲きます。剪定する枝の部位は、花がついている枝の先端から3枚目の葉の上の茎部分が目安となります。

※ 写真は富山県中央植物園で撮影したものです。



写真2 カシワバアジサイの葉と花序（2020.6.18撮影）



写真1 カシワバアジサイ（2020.6.18撮影）



写真3 園芸品種「スノーフレーク」（左）
園芸品種「スノークイーン」（右）（2020.7.14撮影）